

新しい会員から

私の研究と関心領域

松本 正生（埼玉大学）

最近入会したばかりの新参者です。政治学を専攻しておりますが、自己紹介をかねて、これまでの研究内容や関心領域、主な著述を簡単にまとめてみました。

研究テーマを一言で、それもかなりおおげさに表現すると、「制度と意識の相互浸透」ということになるでしょうか。たとえば、「意識の実証研究」の方法に関しては、「政党支持」を素材に、調査結果を単に所与として扱うのではなく、政治の制度や現実の政治過程とのかかわりで捉えなおし、新たな「支持形態」指標や「支持分析」型質問方式、「リアリズム・アンチリアリズム」枠組などを提案しました。

また、最近では、「選挙制度と投票行動」に関して、個々の選挙制度の特性が、それぞれの社会の文脈のなかでどのように機能変化するかということを検討しながら、同時に、候補者決定の方法や選挙運動の形式に代表される選挙過程、有権者登録の有無に象徴される政治的社会化の過程など、広い意味での制度的条件の重要性に注目しています。

もちろん、制度と意識との相互補完的關係性を、どのように整理し、いかにどのように評価するかは、はなはだ困難で、情報や知識が増すにつれて明確な解答を表明することがより難しくなるということ、日々実感しています。なお、このところ、自治体学への関心も胚胎しはじめています。

日本世論調査協会の諸先輩の皆様には、データのそれなりの質を確保するための、調査の企画・実施の過程で生ずる多様な誤差間の、あるいは偏り間の相対的比重の評価方法ないし評価基準について、是非ともご教示いただきたいと思ひます。

〔単著〕『世論調査と政党支持』、法政大学出版局、1991

〔共著〕『K-FACE研究叢書1:地球化時代における地域の役割』かながわ学術研究交流財団編、かなしん出版、1996

『NIRA OUTPUT:戦後世代の価値観変化と行動様式の変容』、社会経済国民会議、1988

〔論文〕「『政党支持』と政治的メンタリティ」、『社会科学論集』第88号、1996.7

「世論調査方法の比較検討—面接・電話・郵送三種実験調査結果から—」

『社会科学論集』第87号、1996.2 ▲